水俣病解明へ共同研究班

熊大医学部

米学者が資金提供

新潟大も提携申し入れ

熊本大学医学部の武内忠男教授（病理学）らは水俣病の未解明な領域について調査するため、同大医学部各教室による共同研究班結成の準備を進めている。同研究班には米国学者からの資金提供の申し出や、新潟大との提携の話も持ち上がっており、計画が実現すれば三十一年に同医学部につくられた水俣病研究班に続く学者グループによる共同研究として注目されている。

再汚染への防波堤に

武内熊大医学部教授

同計画は、武内教授が昨年十月、米国での国際水銀汚染会議に出席したとき「いかに水銀汚染についてのデータが不足しているかを痛感した」ことと、ことし一月、米国の水銀汚染研究者で、メイヨ医科大学神経学部長のレオナード・カーランド博士から「もう一度集中的に水俣の水銀汚染の実態を調べてみてはどうか」との強い勧めがあったことから、浮かびあがったもの。カーランド博士はメイヨ基金かNIH（国立衛生研究所）からの研究資金提供を申し出ている。

このため武内教授は、同医学部内で共同研究班の発足を募っているが、研究班は水銀汚染に取り組んでいる病理学、公衆衛生学、眼科、耳鼻咽喉（いんこう）科などの各教室の研究員で構成される予定。

結成に当たって、カーランド博士からの資金提供に応じるかどうかは未定で、早ければ今月末にも会合を開いて、決定したい意向。その後さらに話し合いを重ねて具体的方向をハッキリさせるが、新潟大学の椿忠雄教授（神経内科）からの研究提携の申し出も来ており、この点についても協議する。

研究内容は❶人間はどの程度の水銀汚染で発病するのか❷水俣でまくみられる神経性疾患が水俣病かどうか❸十年経過した水俣病の"病変"❹眼科、耳鼻咽喉科系の未調査部分―などが中心となる。

また水俣湾には大量の無機水銀が残っているが、米国やスウェーデンでは無機水銀が湖底で自然に有機化することが実験的に実証されており、将来再び水俣に大きく水銀汚染が発生する恐れもあるため、この点も研究項目に盛り込まれる。

この計画について武内教授は「まだ話し合いの段階だが、純粋に学問的な目で、十年経過した水俣病を再研究する必要がある。医学部全体がまとまらなくても、有志者だけでも結成するつもりだ。現地の人や、県の協力が得られるかどうかが問題なので、十分な協力体制が整ってから実行段に移りたい」と言っている。